

京丹波町立（仮称）たんばこども園新園舎建設基本計画【概要版】

1. 計画策定の背景と目的

本計画は、上位計画である「京丹波町総合計画」及び「京丹波町子ども・子育て支援事業計画」において、幼児期の教育・保育の一体的提供及び推進体制の確保に関する方策として「認定こども園の普及に関する考え方」が示されていることを受け、施設の老朽化が課題である須知幼稚園と上豊田保育所（下山分園含む）の統合園舎整備に関し、利用者ニーズに応じた施設、園児の健やかな育ちと成長が促せる施設、京丹波町の特色を活かした施設の整備を目的としています。

2. 前提条件の整理

統合対象である施設はいずれも築40年以上経過しており、老朽化に伴う雨漏りや増築による動線の複雑化など、施設管理や運用に困難が生じています。

子育て世代に多様な働き方が広がる中、就労状況の変化等に伴う保育ニーズの高まりにより、上豊田保育所は入所児数が増加傾向にあります。一方で、須知幼稚園では預かり保育の利用があるものの入園児数は減少傾向にあり、竣工当時の定員に対して約2割の利用人数となっています。

こども園整備に関する意識調査

本計画を定めるにあたり、保護者や町民の皆様を対象に実施した「こども園整備に関するアンケート調査」では、新園舎整備において「敷地」「園舎」いずれも「安全性の確保」に関する項目が高い割合を占めました。

多機能な役割を担う併設施設整備

新園舎が、京丹波町の特色を生かした施設、子育て力を育みサポートする施設となるよう、**認定こども園機能**に加え、入所していない就学前児童や保護者の皆様の交流の場、発達段階に応じた支援の場としての役割を担うことを目的に、「療育事業施設」「子育て支援ルーム」を整備するものとします。

3. 整備の基本方針

（仮称）たんばこども園のクラス編成

施設定員は、「支援事業計画」策定時に用いた住民基本台帳の実績値から将来人口を推計した数値を引用したうえで、開園予定の平成34年度時点における児童数を基礎データとして過去8年間の入所率により算出し、**180名**で設定します。

就学前教育・保育の充実を図る観点から、本町においては職員配置基準を国及び「京都府認定こども園の認定等の要件等に関する条例」による基準よりも多い職員を配置し、**園児の健やかな成長を促す、きめ細かな教育・保育ができる体制**とします。

表：年齢別クラス編成

	年齢別 定員	クラス数	クラス単位 定員	(仮称)たんばこども園における 職員1人当たりクラス定員数 ()内は国・府の基準
0歳児	14	2	7人	2.3人(3人)
1歳児	22	3	7~8人	4人(6人)
2歳児	26	2	13人	4.3人(6人)
3歳児	38	2	19人	19人(20人)
4歳児	40	2	20人	20人(30人)
5歳児	40	2	20人	20人(30人)
計	180人	13クラス		

※表の定員数、クラス数は本町独自の基準により算定したものです。

建築計画・施設計画における基本方針

安全で安心して利用できる施設

- 災害時の安全性確保をはじめ、園児の遊びや生活におけるリスク及び衛生・健康に配慮した施設とする。

園児にとって魅力ある施設

- 自立心や好奇心を育むのをはじめ、発達過程への配慮、異年齢交流などによる多様な価値観が共有できる施設とする。

充実した教育・保育を提供できる施設

- 利用者の動線と教育・保育がスムーズに行える十分な収納スペース確保、食を生かした学びなど多様なニーズの変化に対する柔軟性を持った施設とする。

豊かな自然を活かした人と自然にやさしい施設

- 豊かな自然環境を取り入れた活動やさまざまな遊び、京丹波町の豊かな森林資源を活かした温もりと安らぎが感じられる施設とする。

地域総がかりの“子育て力”を活かせる施設

- 校種間連携の想定をはじめ、保護者や地域など“地元力”の参画、“子育て力”を育む多世代交流拠点となる施設とする。

コスト縮減や維持管理に配慮した長寿命な施設

- 整備コストの抑制はもとより、メンテナンスや将来の改修を考慮した維持管理のしやすさ、長寿命な施設とする。

計画敷地について

計画敷地は、新設するこども園が既存施設の統合園であることを踏まえ、**園児の健やかな育ちと成長を支援する施設、京丹波町の特色を活かした施設を実現できる環境**を基本に、安全面、地形、隣接施設の利用者への影響等を総合的に勘案し、都市公園も含めた周囲の豊かな自然すべてを育ちの場とすることができる環境に魅力があることから、「**須知幼稚園**」と隣接する都市公園「**須知公園**」を候補地として選定しました。都市公園の一部占用にあたっては、公園管理者(※)と協議・調整する必要があります。 ※須知公園は町立のため京丹波町。

4. 建築計画・施設計画

こども園

- 利用する園児の安全面を第一に考えたうえで、周囲との調和を図るなかで京丹波町の森林資源を有効活用した構造を取り入れるとともに、整備の際には園児の発達・育ちに合った環境や衛生面・安全面、バリアフリーなどを考慮するものとします。

療育事業施設

- 生活や学習面で、個性性の高い関わりが有効であると判断される児童が、自尊心を育み、主体的に社会参加するための土台となる力を培うため、遊びや体を使った活動をとおした専門的な関わりを行うことを目的に整備を検討するものとします。

子育て支援ルーム

- 未就学の親子が気軽に集い、相互に交流を図ることができる場の提供および子育て等に関する相談や援助、子育て関連情報の提供を目的とした拠点子育て支援センターの受け皿となる施設として、丹波地域の子育て世代を対象とした運営を想定し、こども園の園舎内に整備を検討するものとします。

5. 財源について

園舎は、木造または木質化する場合には、林野庁の「次世代林業基盤づくり交付金（森林・林業再生基盤づくり交付金）」の適用により、財政負担の軽減が可能です。

6. 事業スケジュール

本計画策定後、開園に向けた事業期間は平成30年度～平成33年度の約4年間となる見込みです。都市公園の占用許可、造成に伴う開発許可が必要となるため、設計期間を十分に確保し、平成34年度開園を目指します。